



身近な話題や、部落での催し物などがありましたら広報係(2-1115)までお知らせください。掲載された写真をほしい方は、広報係まで。

忙しい中にも楽しい毎日

宇井よし江さん(本町)



▲七宝焼きに夢中な宇井さん

「細かい仕事をするのが好きで、自分が思うように作れるので、二年ぐらい前から、公民館活動でジンフラワーや七宝焼きを始めるようになりました」と話す宇井よし江さん。

「細かい仕事をするのが好きで、自分が思うように作れるので、二年ぐらい前から、公民館活動でジンフラワーや七宝焼きを始めるようになりました」と話す宇井よし江さん。自分が作ったブローチやペンダント、七宝焼きで作った帯止めなど、どれを見てもすばらしいできばえです。「できあがりを見るのが楽しみです。それに、これを作っている時は夢中になれますから」と話す宇井さん。自分が作ったブローチやペンダントを、他の人の

横芝俳壇

横芝句会三月例会

土屋 栗水
肩と肘服光らせて卒業す
成田 様子

剪定の声通ひ合ふほどの距離
宇井 芝童

仕送りの枷も暫しや卒業期
藤代 ゆう

孤児の目に祖国は富めり二月尽
若梅あやめ

卒業子に亡夫の面影重ね見る
若梅あやめ

横芝短歌

俳句心得一、二浮かべて鳴雪忌

池田 和代
海保恵保子

庭草の色めき初めて鳴雪忌

降りしづく雨を背にうけ釣師らの
鈴木 サツ

手練のさばきあざやかなりき
宇井 勇

受診待つベンチの老翁手をくみて
向後まさ子

甲狀腺病みて三年漸くに脈拍百を
割りきし昨年
海保 きみ

たそがれて杉山くろく沈みゆき
見上ぐる秀先に二月あり
津田 若菜

草ぬきて夫の墓標に注ぐ酒しばし
香りに地に吸はれゆく
斎藤 寛次

ちちははの逝きしよはひをいつか
越え五人兄弟二人となりぬ
土屋 栗水

病む膝を庇ひ手擢にすがりつつ跨
線橋ようやく渡り終へたり

横芝の碑 (一一〇)

口碑が伝える子持講安講と

子供を抱いた子安石像

子安講の風習のほとんどは、ぞくに「子安様」という慈母観音に似かよった姿を描いた掛軸を、当番の家に掲げ、その前で、持ち寄るか当番の家で用意した簡単な酒肴などで食事をしながら、子育てやお産の話を中心に楽しく語り合つて過す、という形式で信仰の主体は、掛軸にあるようです。

ところが、両国新田には「子安様」と呼ばれる、左手に子供を抱いた石像が祭られています。しかし、子安講は掛軸を掲げた前で行

うそうです。

子安講の行事は、以前は定まつた月日に行われていたようです。今では各地区ごとに、まちまちになつていてという話ですが、行事そのものは同じようです。ただ、栗山の一部に「持込み子安講」という珍しい風習があります。

ある家で、お嫁さんに子供ができないと、だれかが子安講の人に頼みます。頼まれた人は子安講の仲間を誘い、大安吉日を選び、子安様の掛軸と清酒、にしめなどを